



山吹議員



### Q 高齢者福祉の問題について (認知症対策)

A 認知症対策を総合的に推進していく (光本福祉課長)

A 認知症への理解を深め、地域支援体制の構築及び適切な支援について総合的に推進していくことを目的とし、これまで住民向けの講演会や講座などを実施した。  
今後は相談窓口などを掲載したマップの作成等の検討を進め、認知症の方や家族介護者を対象の講演会や個別相談会も、平成22年1月下旬に実施する。

Q 県のモデル事業として、認知症対策事業を実施されているが、事業の内容、進捗状況並びに今後の計画について伺う。

### Q 太陽光発電システム設置費補助制度について

A 町ホームページや町広報で周知している (広田生活環境課長)

A 1件あたり10万円を補助するもので、10件の先着順により12月1日から募集を始めている。  
周知については、町ホームページや町広報12月号でお知らせしており、町民に対しては、どのような省エネ設備が対象となるのかが分かりにくい面があるので、細かく説明するよう努めている。  
12月8日現在で、4件の申し込みがあった。

Q 補助金額・募集期間・申請要件など内容を明確に周知しているか。現在の申し込み状況は。

伊藤議員



福垣内議員



### Q 救急キット配布事業について

A 地域の協力により導入を考えていきたい (光本福祉課長)

A 十数年前、健康保険証の内容等を記載した「緊急時情報連絡カード」を作成し、ひとり暮らし高齢者に配布したことがある。今後、民生委員、社会福祉協議会、地区社協、ケアマネジャー、消防署など、地域の協力を頂きながら、導入について考えていきたい。

Q 東京都港区の「救急医療情報キット」事業は、冷蔵庫にある医療情報の入った箱を駆けた救急隊員が開け、その情報で適切、迅速な救命処置をするもの。熊野町も実施したらどうか。

藤本議員



### Q 高齢者、弱者に対する細やかな配慮について

A 公益団体でもある高齢者能力活用協会の利用について周知していきたい (立花民生部長)

A 町内には短期間の臨時的な軽作業を有償で請け負う団体として、高齢者能力活用協会(略称/高能協)がある。  
町としては、比較的低料金で業務を請け負い、公益団体でもある高能協の利用を、町民に積極的に周知すると共に、長年培った技術や経験を地域に還元したいという、元気な多くの高齢者が高能協の会員になって頂けるよう、積極的に支援していきたい。

Q 雨どいの掃除など、昔は困ったことでも近所の若い人が手を貸してくれていたが、今では若い人自体が少ない。自治体が細かな配慮をするべきと考えるが、今後の高齢化に対しての考えを伺う。

### Q 後期高齢者医療制度について (短期被保険者証/来年度保険料)

A 納付相談の機会を増やすための交付である  
来年度の保険料は平成22年1月以降決定 (清代住民課長)

白築議員



A 効果的かつ効率的な収納対策を行うには、被保険者と接触して納付相談の機会を増やすことが重要。このため、前年度の保険料に滞納がある被保険者は、原則として有効期限を6ヵ月とした短期被保険者証が交付されている。  
来年度の保険料は、広域連合において保険料率の見直しが行われているが、平成22年1月以降に決定すると伺っている。

Q 保険料が納められず、短期被保険者証を発行された高齢者は、期限を過ぎれば無保険状態になる。この制度を廃止し、老人保健制度に戻すことで改善を図るべきだと思っております。また、来年度の保険料はいくらになるか。